

多文化共生のまち福島

推進検討委員会

【第2回会議】

日時 令和2年1月16日(木) 午後1時30分～
場所 市役所本庁舎4階 庁議室

目次

1. 第1回検討委員会の振り返り P1～P10
2. その他のご意見について P11～P16
3. 在留外国人アンケート調査結果について P17
4. 多文化共生のまち福島推進指針(案)について ... P18～P20
5. 生活ガイドブックの見直し案について P21
6. 事務連絡 P22

1. 第1回検討委員会の振り返り(その1)

【委員の皆さまからのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針について

- ① 支援対象となる**外国人の定義**について、国籍により狭義に捉えず、「日本に溶け込むために支援を要する人」と**広義に捉えるべき**。
- ② 英語を母語としない外国人旅行者でも、案内所での言語対応のメインは英語である。
- ③ 日本語支援が必要な児童に、**派遣時間の制限なく日本語指導のサポート**を行っている他自治体の例もあるため、指針を作ることで施策としての実現も期待される。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その2)

【委員の皆さまからのご意見】

(2) 生活ガイドブックについて

- ① **ごみの収集日程の多言語化**も必要であり、現在、日本語のみの表記で、外国人に対して不親切な印象を覚える。
- ② 「災害情報についてはウェブサイト等を確認」とあるが、日本語で発信される情報よりも、**多言語で発信される情報量が不足**していないか。
- ③ 災害情報については、市だけでなく観光コンベンション協会でも情報を発信している。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その3)

【委員の皆さまからのご意見】

(2) 生活ガイドブックについて

- ① 外国人の多くは、災害情報を携帯電話のアプリや、外国人コミュニティなどから取得することが多い。
- ② 日本人の外国人支援者が、災害情報を発信していたという例もある。
- ③ 災害情報については、市や観光コンベンション協会のSNSだけでなく、SNS上のコミュニティを通じた情報発信も大切である。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その4)

【委員の皆さまからのご意見】

(3) その他各生活分野について

《情報伝達・共有関連》

- ① 多言語化について、電子アプリ通訳などの**翻訳ツールの活用**も期待されるが、機能面にも注目して導入するとよい。
- ② 外国人に対する**通訳者登録・派遣の仕組み**の必要性。
- ③ **医療通訳者**が不足しているため、医療機関に限らず、様々な関連する団体においても、**通訳者養成**の取組みに協力してほしい。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その5)

【委員の皆さまからのご意見】

(3) その他各生活分野について

《情報伝達・共有関連》

- ④ 市役所での外国人対応の際に、単にパンフレットを配付するだけでなく、様々な活動機会の紹介など、対応の最前線の入り口として、積極的な情報提供機能となることを期待したい。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その6)

【委員の皆さまからのご意見】

(3) その他各生活分野について

《コミュニケーション関連》

- ⑤ 児童生徒に対する日本語サポートの継続的な支援と、保護者に対する支援や情報交換・共有も必要である。
- ⑥ 様々なサークルやスポーツ・文化活動につながる交流イベントの開催が望ましい。
- ⑦ 外国人との共生について、特に子供の理解を深めることが、日本全体の意識を変えることにもつながる。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その7)

【委員の皆さまからのご意見】

(3) その他各生活分野について

《コミュニケーション関連》

- ⑧ 大人よりも子供の方が、外国人に接する抵抗はないため、**子供のうちから外国人と触れ合い**、目や肌の色の違いに慣れるとよい。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その8)

【委員の皆さまからのご意見】

(3) その他各生活分野について

《受入環境整備関連》

- ⑨ 外国から来た者へWi-Fiを提供してあげることが、コミュニケーションをとるための一つのツールとして大切である。
- ⑩ 公共施設におけるフリーWi-Fi整備の拡充とともに、使いやすい・つながりやすい仕組みについても考えた方がよい。
- ⑪ ホスト側住民の意識をどのように変えていくか、啓発についても大切である。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その9)

【委員の皆さまからのご意見】

(3) その他各生活分野について

《相互理解関連》

- ⑫ 地域社会と捉えたときに、**外国人の町会加入**についても期待。
- ⑬ 国際交流イベントでは、多くの外国人や外国人交流団体の参加がある一方、市民の多くにその**認識がなく、交流活動が内向き**。
- ⑭ **外国人の日本理解**に合わせ、**受け入れている側の日本人の理解力**も高めた相互理解が必要。
- ⑮ 指針を作る場合には、異なる生活ルールに起因した**紛争の処理****という視点**も、共生を考える上で必要と考える。

1. 第1回検討委員会の振り返り(その10)

【委員の皆さまからのご意見】

(3) その他各生活分野について

《相互理解関連》

- ⑯ これからの国際交流イベントは、外国人がより社会に参加できる仕組みを意識し、日本人と共にお互いの文化を学習できるものが望ましい。
- ⑰ 指針を作る際には、困っている外国人に寄り添っていく方向性が指針に盛り込めれば、外国人にやさしい街づくりにもなる。

2. その他のご意見について（その1）

【委員や市民等、「第2回ふくしま元気トーク」(※注)参加者からのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連 《情報伝達・共有関連》

- ① 外国の方が何か情報を得ようとするときに、パンフレットの配付も大事だが、まずは**気楽に聞きに行けて、責任をもって対処してくれる場所**があるとよい。

※注 「ふくしま元気トーク」： 市長と市民が直接対話し、市の課題や将来などをテーマに意見交換
第2回テーマ「多文化共生のまちづくり」／在住外国人ほか11名参加

2. その他のご意見について (その2)

【委員や市民等、「第2回ふくしま元気トーク」参加者からのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連 《コミュニケーション関連》

- ② 学校での児童に対する日本語の個別サポートの時間が足りず、学習についていけないケースもあるため、日本語サポートの時間を増やしてほしい。
- ③ 多文化共生は長いスパンで考えていくべきで、子供の教育に「多文化共生」からの「自国を見つめる」内容を取り入れてほしい。

2. その他のご意見について (その3)

【委員や市民等、「第2回ふくしま元気トーク」参加者からのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連 《受入環境整備関連》

- ④ Wi-Fiの整備はオリンピックを迎えるにあたり重要。
- ⑤ 外国人の場合、言葉がわからない、家族も誰も助ける人がいないときに病気になると、本当に大変で、本人にしかわからないニュアンスを医師に伝える通訳者が必要。

2. その他のご意見について (その4)

【委員や市民等、「第2回ふくしま元気トーク」参加者からのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連 《相互理解関連》

- ⑥ 外国人が、防犯講習会や交通法規学習会など、**生活ルールを学習する機会への参加促進**を、社会全体で図った方がよい。
- ⑦ 自治体以外の団体、一般市民や外国人自身も、**取り組みやすい具体的なもの**を指針に盛り込むとよい。
- ⑧ 福島では、外国人が語学力を生かしながら**正社員として働ける場所**がない。

2. その他のご意見について (その5)

【委員や市民等、「第2回ふくしま元気トーク」参加者からのご意見】

(1) 多文化共生のまち福島推進指針関連 《相互理解関連》

- ⑨ 礼拝は外国人にとって暮らしの一部であるため、国際化を考える際には、**礼拝所の設置**も検討してほしい。
- ⑩ レストラン等で使用食材を表示するなど、**外国人が食べられない食材**があることに、ちょっとした気遣いが必要。

2. その他のご意見について (その6)

【委員や市民等、「第2回ふくしま元気トーク」参加者からのご意見】

(2) 生活ガイドブック関連

- ① 携帯アプリ「さんあ～る」などの活用紹介も有効。
- ② 生活ガイドの各項目の見出しを、「～したら」「～のとき」として、分かりやすい表示にするとよい。
- ③ 外国人労働者に対する労働相談ダイヤルの掲載。
- ④ 多言語化にも限界があるため、やさしい日本語やフリガナ、イラストなどの活用による配慮があってもよい。
- ⑤ 日本語が不自由な外国人にも対応した医療機関の情報開示。

3. 在留外国人アンケート調査結果について

(1) 県・市共同による外国人アンケート調査

【実施】 令和元年10月下旬～11月15日

【方法】 20歳以上の市民無作為抽出 384人 (※全県で約2,800人発送)

※対象者の国籍に応じ、中国語、英語、韓国語、ベトナム語で調査書を翻訳

(2) アンケート調査結果

※現在、集計・統計作業が未了のため、次回以降の会議においてお示しする予定です。

4. 多文化共生のまち福島推進指針(案)について

【まとめ】 ※同指針(案)の詳細イメージは、別添資料のとおり

- (1) 指針対象
- ① 在住外国人
 - ② 海外にルーツを持つ在住者(日本国籍を有する帰国者)
 - ③ 地域住民(日本国籍)、地域団体・企業
- ※必要に応じ、外国人旅行者も対象に含める
- (2) 指針構成
- ① 本指針の位置づけ(計画体系)
 - ② 多文化共生の意義
 - ③ 多文化共生施策の基本的な考え方
 - ④ 外国人等との共生社会の推進等に係る基本的な方針
 - ⑤ 多文化共生のまち福島推進パッケージ(予算連携)

4. 多文化共生のまち福島推進指針(案)について

【まとめ】

(3) 外国人等との共生社会の推進等に係る基本的な方針(案)

《基本指針1》 適切な情報伝達・共有手段の確保

(参考意見) 日本語のみの表記多い、多言語での情報量不足、他団体等連携による情報発信、携帯アプリやSNSによる情報発信、翻訳ツール活用

《基本指針2》 円滑なコミュニケーションの実現

(参考意見) 児童生徒に対する日本語サポートによる継続的支援、保護者との情報共有、国際交流イベントでの文化交流、外国人との共生理解

《基本指針3》 生活サービス・環境の改善

(参考意見) 使いやすい・つながりやすいフリーWi-Fi整備、通訳・翻訳の仕組み、多言語での情報量不足、他団体等連携による情報発信

4. 多文化共生のまち福島推進指針(案)について

【まとめ】

(3) 外国人等との共生社会の推進等に係る基本的な方針(案)

《基本指針4》 相互に理解し、互いに尊重し合う共生社会推進

(参考意見) 外国人の町会加入、ホスト側住民の意識向上・啓発、受入側を含む相互理解、外国人の活躍の場所、異なる生活ルールの学習と紛争処理

《基本指針5》 ニーズ把握と受入施策の充実・強化

(参考意見) 交流活動が内向き、様々なサークルやスポーツ活動等につながる交流イベント、若年世代から多文化共生と自国文化への理解向上

《基本指針6》 受入施策を包括的に推進するための体制整備

(参考意見) 他団体等連携による情報発信、各団体・機関による取組紹介

5. 生活ガイドブックの見直し案について

(1) 掲載内容・方法の見直しについての参考意見(再掲)

① 掲載内容について

- ・ ごみの収集日程の多言語化
- ・ 多言語で発信される情報量の不足(関連するサイトの紹介のみではなく)
- ・ 携帯アプリにより災害情報を発信
- ・ 関連団体・機関の取組みを併せて紹介

② 掲載方法について

- ・ 一目で分かりやすい掲載手法(見出しの表現方法など)
- ・ ガイドブックらしい簡潔な表現とすっきりしたレイアウト
- ・ やさしい日本語やフリガナ、イラストなどの活用

(2) 掲載内容等の見直し(案)について

※別添資料のとおり

6. 事務連絡

- ※ 次回の検討委員会(第3回)は、
日 時 2月中旬
場 所 市役所本庁舎4階 庁議室 での開催を予定しています。

大変恐縮ですが、2月5日(水)を目途に事務局まで、ご意見をお寄せください。